伝説を知る

オオウバユリ（トゥレプ）の花

言い伝えの中にある真実

草には様々な伝説があります。これは、昔の人々が、自然に対しておそれと尊敬の気持ちを持ち、何より自然を身近に感じていたからでしょう。

伝説には、その草の持つ特徴や人との関わりが色濃く現れています。そして、伝説から自然とのつきあい方を学び、人としての生き方も学んでいけます。

ここでは、福岡イト子さんの「アイヌ植物誌」（草風館　1995）から、山菜を採る際の注意が示してある物語を引用・紹介します。

私たちは、ウェンクル（貧乏な・人）のウムレックル（夫婦）であった。〈中略〉

ある夜、太い木の陰でオシッコをしていると〈中略〉浜のカラスが、

「近頃、山のコタンで何か変わったことがあるかい」と、山のカラスに聞いた。

「コタンコンニシパ（コタン・をもつ・長者＝村長）が意識を失って、今にも死にそうだが、コタンの人たちは何もできずにいる」と答えた。

「人間たちはそんなこともわからないのか。それは、ニタッウナラペ（湿地のおば）を怒らせたのが原因だ。コタンコンニシパの妻は、大変よく働く女なので、トゥレプの根を小さいものまで残らず採ってしまった。それを、ニタッウナラペが怒ってコタンコンニシパを病気にしたのだ。

だから、イナウを作ってニタッウナラペに謝れば、病気が治るだろう」と浜のカラスはいった。

〈中略〉私はコタンコンニシパの家にいって、カラスの話を教えようとした。

ところが、家に着くと、集まっていたコタンの女たちが「ウェンクルが何しに来た。帰れ、帰れ」といって入れてくれない。

すると、そこへコタンコンニシパの妻が出てきて「夫のために何かしてくれようというのならばどうぞはいってください」といって入れてくれた。

私がカラスの会話を話して聞かせると、コタンコンニシパの妻は、さっそく若い者にイナウを作らせて、カムイノミ〈神への祈り〉をさせた。

すると、まもなくコタンコンニシパは元気になった。コタンコンニシパの妻は喜んで、私に着物やス（鍋）などいろいろなものを持たせてくれた。

私がイコイヌ（動物）の話を聞くことができるために、今では私たちがこうして、ニシパ（物持ち）になったのである。（雨竜伏古・石山キツエ）

（「アイヌ植物誌」福岡イト子 著　草風館　1995　より）

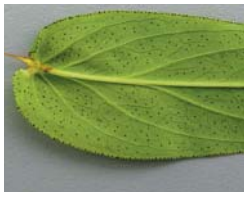
ユカラ（アイヌの詞曲）には、フキノトウ（マカヨ）が何重も葉にを包まれていることにまつわるものもあります。

「神の国にいた女神が家族の留守中に、何枚も晴れ着を羽織り人間の国に降りていった。浮き浮きして激しく踊ったために、人間の国を荒らしてしまった。そのことが兄に知られ、叱られて泣いているうちに気を失った。正気に返ると湿った地下の国にいて、父母の名を呼びながら６年後やっと地上へ出てみるとマカヨ（フキノトウ）になっていた。（語り手・砂沢クラ　旭川市近文出身）」

フキノトウ（マカヨ）

また、本州にもオトギリソウの伝説があります。

「ある鷹匠の弟が、この草を使ったタカの治療法を他の鷹匠に教えたため、怒った兄が弟を切ってしまった。葉の上にある黒点は弟の血のあとで、ここから『弟切草(おとぎりそう)』と名付けられた。」



オトギリソウの葉

（参考文献：「アイヌ植物誌」、「名前といわれ 野の草花図鑑３」杉村昇 偕成社 1987）